

平成30年9月定例会 企画財政委員会の概要

日時 平成30年10月5日(金) 開会 午前10時 3分
閉会 午前11時54分

場所 第1委員会室

出席委員 白土幸仁委員長

細田善則副委員長

浅井明委員、武内政文委員、石井平夫委員、鈴木弘委員、野本陽一委員、

山本正乃委員、浅野目義英委員、権守幸男委員、岡重夫委員

欠席委員 なし

説明者 砂川裕紀企画財政部長、堀光敦史企画財政部副部長、小野寺巨改革政策局長、

山崎明弘地域政策局長、山口均参与、竹島晃参事兼交通政策課長、

犬飼典久企画総務課長、堀口幸生計画調整課長、徳重覚財政課長、

市川善一改革推進課長、横田淳一情報システム課長、福田哲也地域政策課長、

石井貴司市町村課長、鈴木柳蔵土地水政策課長

上木雄二会計管理者、山本好志出納総務課長、長谷川大輔会計管理課長

飯塚寛監査事務局長、渡邊哲監査事務局副事務局長兼監査第一課長、

磯田忠夫監査第二課長

会議に付した事件並びに審査結果

1 議案

議案番号	件名	結果
第86号	平成30年度埼玉県一般会計補正予算(第1号)	原案可決

2 請願

なし

所管事務調査

県の総合計画等の進捗状況の報告について

報告事項

埼玉県の民間との連携の取組について

【付託議案に対する質疑】

なし

【付託議案に対する討論】

なし

【所管事務に関する質問（県の総合計画等の進捗状況の報告について）】

武内委員

- 1 県政全体にわたる重要な計画である「埼玉県まち・ひと・しごと創生総合戦略」の議会への報告は、PDCAのCである「チェック」であり、重要なプロセスである。また、取組の結果を分析し、どのような課題があるかを検証することは、次のAである「アクション」につながる。しかし、これまでの報告は、目標達成度や実施事業の羅列が多く、取組への分析・評価が不十分である。全ての項目について分析・評価を行うべきと考えるがどうか。
- 2 総合戦略及び「埼玉県5か年計画」は、計画全体について、全議員に対して進捗状況の報告を行うべきと考えるがどうか。

計画調整課長

- 1 総合戦略では、これまで主に指標の数値に重点を置いた報告を行ってきた。このため、数値以外の分析や評価については、十分でない面もあった。なぜその数値になったかという分析を改善につなげることが重要である。また、100%を達成したから良いということではなく、その背景を分析し、更なる改善に結び付けることがPDCAの要であると認識している。御指摘を踏まえ、報告内容の改善に努めていきたい。
- 2 総合戦略は、これまでは最も関連のある地方創生・行財政改革特別委員会に進捗状況を報告してきたが、その内容が県政の幅広い分野にわたっていることから、全ての議員の方々に報告する内容を伴うものとする。また、5か年計画は、例年は、指標の数値がおおむねまとまる8月頃の実績を行政報告書に掲載するとともに、決算特別委員会において進捗も含めて御審査いただいている。更に今年度は、昨年度から開始した計画の状況について、6月定例会の常任委員会で速報値を報告させていただいた。これらの計画について、今回の御指摘を踏まえ、報告方法を検討していきたい。

武内委員

議会への報告は単に行えばよいというものではなく、きちんと執行部の皆さんが受け止めて次のアクションにつなげるための参考資料である。また、県民の皆さんに行政のプロセスを透明化するという意味で非常に重要だと考える。報告方法について、是非、検討していただきたい。（意見）

野本委員

資料を見ると、目標に対して100%を超えている指標が結構ある。100%を達成すること自体は悪いことではないが、重要なのは目標の設定である。当初設定した目標値が甘ければ達成するのは当然である。進捗状況の報告に当たっては、どのような考え方でこ

の目標値を設定したのか、根拠や考え方をきちんと特記することを要望する。(意見)